

どしんと コミュニケーション



市長の妄想？

Vol.120

天気予報を見ていて時々感じるのですが、どうも鳥羽の気温は低いようです。尾鷲などと比べたらずいぶん差があります。その理由はよくわかりませんが、私が考えているのは北風の通り道になっているのではないかということだと思います。日本地図を見ると気づきますが、若狭湾が内陸に切れ込み、琵琶湖そして関ヶ原を通って伊勢湾に抜けるルートはちよつと鳥羽の真上を通過してゆきます。高い山脈に遮られた北風はこの低地を吹き抜けていくのでしょうか。冬場は寒いのはちよつとつらいですが、そのぶん夏場が涼しいというメリットもあります。

こんなことを考えていて、はたと思いついたのですが、若狭湾のある福井県は原発銀座と呼ばれています。もしも原発事故が起こったら、風の状態によっては放射能はまとも鳥羽の上空にやってくるのではないかということでは、遠い北陸の問題だと言つていられないこともありません。3月12日の中日新聞に載った記事です。福井県は使用済み核燃料の県外搬出を促すため、使用済み核燃料に課税できるよう検討していることを明らかにしたということです。福井県は「使用済み燃料まで引き受ける義務はない」と言っています。県外とはどこのことでしょうか。福井県外とは他の県の県内に他なりません。原発を誘致して、経済的利益をこつこつと積みながら、有害な核のゴミは今まで利益のなかつた他県で引き受ける

というのはとんでもない話です。他の県は福井県以上の高い税を課することが必要です。さらに福井県は廃炉作業が始まった原発に対しても課税したいと言っています。その費用は電力会社が負担し、当然私たち国民に転嫁されてくることでしょう。

福島第一原発事故は、さる13日のNHKのドキュメンタリーでは東日本壊滅の恐れがあったそうですが、その発生から5年間に国民が負担した額は、確定分だけで3兆4000億円を超えるそうです。東電でもすぐに吹っ飛ばだけの巨額ですが、国が肩代わりしてくれたり電気料金に上乗せしたりで、結局は国民が負担するようになっていきます。当の東電は存続してゆきますから他の電力会社もいざとなつたら国が面倒を見てくれるだろうと、危機感なしに原発の再稼働に走る構図です。

原発誘致の利益は北陸地方に落ちて、使用済み核燃料はどこかをさまよい、事故の負担金や電気料金が跳ね上がり、人が住めなくなるような強烈な放射能が北風に乗って鳥羽へやってくる。これは私の妄想です。ご心配なく。



Vol.147

子どもにつけたい力 —自尊心を育てる—

あなたの顔はどのような表情をしていますか。鏡に映った自分の顔を眺めてみてください。

自分を大切にできない子どもが増えています。自分を大切にできない子は、友達への思いやりの気持ちを持つことができないと言われます。「どうせ自分なんか…」これが、自尊心が乏しい子の口癖です。大切な自分に気付いていないのです。

「ありがとう」と言われると子どもの表情が和らぎます。「ありがとう」は不思議な魔法の言葉です。「ありがとう」と言われるためには、誰かのために何かをしなければなりません。けつこうな労力が必要なときもあります。なぜ、子どもたちは、「あり

がとう」と言われるとうれしいのでしょうか。それは、人のためになることができた自分を実感できるからだと思えます。「自分って、けつこうやれるな」という思いを抱き、自分を肯定できるようになるからではないでしょうか。「ありがとう」と言われることで「ありがとう」と言える自分になれると思えます。「自分を支えてくれる人」…自分のまわりには、自分を支えてくれるたくさんの人がいることに気付くのです。その人達がいなければ幸せにはなれません。そして、自分を支えてくれる人への「ありがとう」の気持ちが増え、膨らんでくると思えます。

まず、自分を大切にできる子を育て、まわりの友達に優しくできる心を育みましょう。その先に広がるのが、社会を構成する一員として主体的に生きていこうとする思いなのです。「ありがとう」の連鎖、笑顔の連鎖は社会の中に潤いを与えるものだと思います。心が豊かになる関わりを家族、地域社会から作っていきましょ。自分というかけがえのない財産を大切にしてください。